

プレゼンテーション向上委員会

● 2010/06/08 パワーポイントの勘違い（その1）

プレゼンテーションと言えば、パワーポイント。パワーポイントと言えばプレゼンテーション。と考えている人が多いのではないのでしょうか。

実際、プレゼンテーションを実施する際に、パワーポイントを使っている人は、ほぼ100パーセントに近いとした統計もあります。私自身の体感もそんな感じですよ。

ただ、パワーポイントの有用性を、本当の意味で引き出して活用している人は、極々僅かです。数回のシリーズに分けて、その辺りのパワーポイントの勘違い活用について紹介したいと思います。

まず最初にお伝えしたいのが、準備段階におけるパワーポイントの活用です。

「プレゼンの準備＝パワーポイントの起動」と考えている人、無意識にそうなってしまっている人が多いのではないのでしょうか？

何が問題かと申しますと、準備でパワーポイントを使うこと自体は、決して悪いことではありません。

しかし、こう考えている人の多くは、最初から最後までパワーポイントによるスライドの作り込みに終始することで、準備時間の大部分を費やしてしまう傾向が強いことです。

そんな状態の人は、ほぼ間違いなくプレゼンテーション全般が「スライドを用いての説明」ではなく「スライドの説明」になってしまいます。更に厄介なのは、本人がこれに気がつくのは難しいことです。

なぜそうなってしまうのかには、ちゃんと理由があります。続きは次回にお話しますね。